

地域は地域で守る： 三世代コミュニティ構築と絆で 高める総合防災力活動

京都府宇治市 平尾台自主防災・防犯組織会
会長 田上 澄



1 はじめに

宇治市平尾台は、京都府宇治市の北部に約30年前に開発された戸建て住宅地（住民約1,700人、内2丁目189戸512人、3丁目148戸445人）で、近くに活断層がある丘陵地にあり、高い確率で近年起こると警告されている南海トラフ地震などの大地震（震度6～7）に対する備えがとても重要です。

平尾台二丁目自治会では、平成5年発足以来、防災については、防災出前講座、消火器訓練、防災マニュアルの作成など、通常の防災活動に取り組んできました。しかし、平成30年までは、新興住宅地特有の住民相互の絆の弱さから、防災意識は必ずしも高まらず、実際に災害が発生した時の住民の協力的な行動を想定することは困難でした。

災害時の被害を最小限にするために最も必要なことは、地域住民の防災意識の向上です。各個人の高い防災意識はもとより、住民相互の信頼に基づく絆が強ければ、相互に支え合う防災意識の相乗効果により災害を最小限にくい止めることができます。

私たちは、平成30年12月、平尾台2、3丁目各自治会の中に、平尾台自主防災・防犯

組織会（以下当組織会）を発足させ、「地域は地域で守る」ため、住民三世代（子供・青壮年・シニア）コミュニティを構築して住民相互の絆の強化をはかり、地域住民の支え合いを実現し、それを基盤として大災害に備えるための具体的な独自の取り組みを進めています。

2 三世代コミュニティの構築

当組織会は、2・3丁目自治会役員（任期1年）と住民有志〔中心は宇治市の公認老人会である平尾台喜老会（会長田上）の会員（シニア層）で宇治市公認の防災リーダー数名と若干名の青壮年層〕で構成されています。当組織会は自治会の年間防災訓練計画を立案し、実施します。防災訓練では、子供たちも喜んで参加できる企画をしていますが、それだけでは子供達とその親の世代が多く参加してくれるとは限りません。平素から、夏祭りやリクレーションなど



正確な地震動でリアルな地震体験



安否確認訓練・防災訓練の様子



宇治市消防署による煙体験

の自治会活動、子供会との共催活動、学童見守り活動、公園の花壇活動などにも、当会の喜老会メンバーが中心になって積極的に協力し、重層的に三世代の絆を強める活動を行っています。

自治会の夏祭りは高齢化した自治会には大きな負担で、取りやめの危機もありましたが、これを当会の喜老会有志が支援して、継続して三世代が楽しく盛大に参加できるようにしました。

3 「黄色い無事ですタオル」を使った安否確認訓練 など

地域住民の防災意識を高めるため、自作防災動画上映を含めた防災講座、各種防災訓練、助成金導入による大型防災倉庫の建設と充実、防災マップの作製などの活動を行ってきましたが、中でも「黄色い無事ですタオル」を使った安否確認訓練は、大きな効果が認められました。



地域の絆を作った黄色いタオル

これは、大地震発生を想定して、家族の無事を確認した場合、外から見えるところに「黄色い無事ですタオル」を掲出する訓練です。この訓練はコロナ禍中で、ほかの防災訓練が三密を避けるため中止された時も実施され、令和3年2月には、2丁目で掲出率93%と高



黄色いタオルを使った、安否確認訓練

い防災意識が示されるようになりました。

4 大型防災倉庫の民間財団助成金による導入と防災備蓄品の充実

従来自治会の防災倉庫は運用されていましたが、大災害を想定した場合の備蓄品の保管場所としては容量が十分ではありませんでした。当組織会は、自治会費の不足を補うため、助成金獲得活動により、公園に大型防災倉庫を導入し、災害時に必要となる、テント、ガス発電機、リアカー、非常食、非常用トイレなど多数を保管しています。この活動は、住民全般の当組織会への信頼を醸成する大きな効果がありました。

地域防犯強化のために、2・3丁目町内に宇治市助成金により防犯カメラを11台設置して、今まで以上に環境の良い住みよい地域に成りました。



助成金導入による大型防災倉庫の建設と充実

5 おわりに

コロナ禍中でも災害は待ってくれません。確率的には明日起こっても不思議でない南海トラフ大地震に対して、これで十分という備えはありません。避難所の備蓄品充実、避難所の性暴力防止策のほか、宇治市、消防署、保健所、警察などの行政との緊密な連携など、ここに書ききれていないことも多くありますが、住民相互の絆（信頼関係）をさらに強くして、いざというときに、自助と共助で災害を最小限にする努力を、三世代とともに進めていきたいと考えています。